

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要】

事業所番号	1291000162		
法人名	株式会社 ケアサービス・まきの実		
事業所名	グループホーム 安布里ガーデン		
所在地	千葉県館山市安布里237-2		
自己評価作成日	平成30年12月1日	評価結果市町村受理日	平成31年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	平成30年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】

・入居者様の個別性を大切にし、ご家族様・職員・他職種と連携を図り、安心した生活が送れるように努めています。 ・チームとしてのケアを実践する為に職員同士の連携強化、情報共有を大切にしています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一敷地別棟には地域包括支援センター、同一建物1階にデイホーム、デイサービス、グループホームは2階にあり、それぞれが協力・連携して運営されている複合施設である。ホームは、広いリビング、居室を挟んだ廊下の吹き抜けとなった高い天井、非常用滑り台の付いた広いバルコニーなど、ゆったりとしたスペースが確保されている。また、使用目的を限定しない、談話室と呼ぶ、多目的室も備えている。これにより、家族の訪問時の応接利用の他、定員満床時においても、館山市との契約による、利用者緊急受入が可能となっている。また、多職種を経験した職員が多いことやグループ施設との情報共有などにより、利用者の受け入れにスピードある対応を可能としている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します(○印を記入ください)

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	株式会社 ケアサービス・まきの実 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念 をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実 践につなげている	法人理念をもとにし、事業所目標を設定。 各スタッフへ周知を行い、実践に努めている。 理念・目標については、事業所内に掲示を し、把握できるよう努めている。	事務室には、法人の経営理念と共に、本年 度の事業所目標も掲げられている。職員の 個人目標は理念に基づいて設定される。ま た、管理者は抜き打ち的に職員へ理念や事 業所目標の確認を求めるなど、浸透を図っ ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよ う、事業所自体が地域の一員として日常的に交流し ている	運動会、祭礼行事など、地域の方との交流 を図る機会となっている。その機会を活か し、地域とのつながりが出来る様に努め ている。	自治会へ加入し、年二回の清掃活動に、職 員が参加している。また、入居者は小学校の 運動会へも毎回出かけている。事業所が祭 礼の神輿行列ルートとなっており、入居者も 楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活 かしている	運営推進会議や、地域包括支援センターが 主催となる会の開催協力、施設見学対応 時、家族の方と話す機会があり、事業所と して実施している支援の方法等を伝える機会 としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評 価への取り組み状況等について報告や話し合いを 行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、入居者様の日々の 様子を伝えている。報告内容について、会 議の中で、行政の取り組みや、他施設での 取り組み等参考になる事があり、自事業所 のサービスを見直す機会としている。	地元の代表として町内会長と民生委員は、 交互に最低一人は必ず出席している。身体 拘束適正化への取組状況、事故報告、ヒヤ リハット、行事開催報告、入退去者に関し ても毎回報告している。	
	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え ながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への協力依頼、地域包括支 援センターへの活動協力、緊急受入れの対 応などの機会を通じ、協力体制をとってい る。	館山市高齢者福祉課とは、年6回の運営 推進会議への出席の他、緊急受入れなど で交流を図っている。隣接する地域包括支 援センターいちごとは、日頃から連携しな がら、地域づくりに励んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに 取り組んでいる	マニュアル、研修をもとに、日々のケアに取 り組んでいる。 緊急時には、適切な対応手順を取るよう取 り決めをしている。 施錠については、防犯の為、夜間のみ施錠 を継続している。	県の身体拘束廃止の研修には、3名が参 加しており、参加者が得た知識を介護担 当者全員で共有し、備え付けマニュアルの利 用と共に、実践に活かしている。取組状況 については、運営推進会議に報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について 学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐 待が見過ごされることがないように注意を払い、防止 に努めている	県や、市が開催している研修会へ参加をし 学ぶ機会を設けている。 マニュアルを用意し、職員の意識・意見の 統一に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人利用の方が1名いる。制度については研修へ参加をし、制度に理解に努め、対象となる方がいる場合には、地域包括支援センターへ相談をする等、支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書を用い、入居についての説明を実施。制度改正や契約内容変更時には、都度説明を行い、理解を頂けるような対応をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と話をする際(面会・電話連絡等)、報告のみにならない様に、意向や要望についても、確認を行う事を心がけている。また、法人として苦情窓口の設置をしている。事を入居時の契約の際に、説明を行っている。	ホームの情報や利用者ごとの近況を定期的に送付して家族の理解を深めている。面会や電話対応の際には意見・要望を伺うように心がけ、家族会も年一度開催している。法人の苦情窓口でも、利用者・家族の意見・要望を受け付けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課や、日々のチェックシートについて話をする時に、職員の意見や提案を聞く機会としている。	シフト制の勤務形態のため全体会議の開催は難しい中、「意見交換ノート」や人事考課の面談、日常の活動の中で、意見を聞いている。また、問題事例などは、グループの施設長会議などで共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課と昇給考課を行い勤務姿勢、実績を評価している。不定期にスタッフと話をする機会を持ち、職場環境や条件についての整備を行うよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修については全体へ周知、外部研修については必要な内容を必要な対象職員へすすめ、受講する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内外の研修や、専門職の集まりなどを通し、交流の機会とし、サービスの向上につながる機会としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前訪問を行い、ご本人からヒヤリングを行う機会をつくったり、ご家族等にご本人の気持ちや要望を確認し、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、当日にご家族からのヒヤリングを行い、不安や要望について話を聞く機会とし、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に、情報収集を行い、必要な支援・サービスの利用について説明・相談をし、ケアプランに反映させ、同意のもと、提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「～させていただく」という気持ちを一番に考え、職員教育を行い、入居者様との関係を構築するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアマネージャーを中心に、入居者様を中心とし、ケアを展開する時には、ご家族様を巻き込むためにコミュニケーションを取り、職員・家族共に支援していく為の関係造りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様や、ご家族様の希望を確認し、面会の場所を提供したり、希望があれば外出等の支援を行うよう努めている。	ホーム側は「馴染みの方に来てもらい有難い」との感謝の思いで、寛いで頂ける様支援している。孫や子、知人等の来訪も時々ある。初詣や花見・七夕など昔からの風習や名所等へ、なるべく皆が出掛けられるよう配慮し関係継続を支援し、それらを運営推進委員会や家族訪問時に伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格把握、症状の把握に努め、どのような関わりが必要なのかを見極めたうえで、配席の見直しや、環境整備を行い、必要に応じ、会話の橋渡しなどの援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でも、相談等の連絡があった際には、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネジャー、担当を中心に入居者様の希望等の把握に努めている。また、ご家族へも生活歴や生活等の聞き取りをし、検討を行っている。	入居前に自宅訪問をして、住宅環境の視認と生活歴や生活等を家族から聞き取り、またケアマネジャーや病院等からも情報を得て、本人の概要を把握している。入居後は日常の会話や動作から思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の在宅訪問や、ご家族様、他サービスの担当者などから、情報収集を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護職による定期的なアセスメントや、訪問リハビリスタッフと、連携を取り、状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーを中心に、入居者様・ご家族様・各所職種と情報共有を図り、介護計画作成に努めている。	日々の介護記録や居室担当職員の意見・家族の希望等を基に、押し付けにならないよう配慮した介護計画を作成している。モニタリングは3か月毎に行っている。介護支援ソフトを活用するとともに、意見交換ノートも併用し情報の共有を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録システムを利用し、介護計画内のサービスをもとに記録を残している。実施記録をもとにし、次回の計画作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨時の受診や、外出希望、介護タクシーの利用依頼等、状況や希望に応じた対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動販売の活用や、地域行事への参加を通し、本人が持つ能力を発揮できる機会がつかれるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診察の説明・同意を得られた場合には、月に2回の訪問時に、入居者様・ご家族様の希望等を職員から医師へ伝え、適切な医療が受けられる体制づくりに努めている。	認知症専門医で法人理事長でもある医師が看護師同行で月2回と歯科医等の来診がある。看護師とは24時間オンコール体制がある。アンケートでも、健康面や医療面等の事業所対応の心配な点には、全くない・あまりないと全員が答えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間連絡の取れる体制を取り、日常の中で変化が見られた時には、都度報告をし、支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族様の許可をもらい、病院関係者へ連絡をとっている。双方での情報交換を行い、退院に向けた相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての指針をもとに説明を行っている。その時期がきた時には、医師・ご家族様・職員が話し合う場を作り、望まれた支援が行えるよう気持ちや情報を共有し、取り組んでいる。	入居時に「重度化した場合の対応に関する指針」を説明している。重度化した時には都度、情報を医師に伝えて指示を仰ぎ、家族に伝え意志の再確認をしている。特段の医療的措置の発生がなければホームで最後まで過ごして頂いており、本年はおひとりの方の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて緊急時の対応を学ぶ機会をもうけ、訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の実施、毎月のミニ防災訓練、また非常時に使用する物品の確認などを行い、対応が行えるよう努めている。	年2回の避難訓練の実施と、防災設備の点検等のミニ防災訓練を毎月実施している。消防署との通報訓練では、ホームの住所・電話番号が即答出来なかった反省から、大きめの文字で事務所に掲示した。3日分の米・水等備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で、職員同士がお互いの発言に注意をし、入居者様一人一人の人格・尊厳が尊重されるよう努めている。	「言葉遣いが雑になってくると、利用者への対応も雑になり全てにおいて雑になってくる」との管理者の思いから、言葉遣い・言葉掛けを大切にしている。家族や医師・看護師等がいつ来訪し耳にしても、きれいな言葉遣いで話せるよう注力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、一緒に過ごす中で、入居者様の希望や意向などを聞き取り、自己決定の機会が保たれる様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望を聞き、他の方と過ごす時間、一人で過ごす時間、休息を取る時間など希望される過ごしたかが出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を依頼する時には、事前に希望を聞き、担当の方へ伝えるようにしている。自ら表現ができない方などは、ご家族様から情報をいただき、希望に近づけるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人に合った形態の食事を提供し、なるべく自力摂取ができるよう努めている。必要に応じ、STへ嚥下評価を依頼している。	地元の食材を生かした食事作りをし、好みの席で、本人の状態に合わせミキサー食・ほぐし食・食事介助等で口から食べるを支援している。食事会やおやつ作り等などしながら、毎日の食べる楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分飲水量のチェックを表を用い把握している。個人個人や、日により時間や量も異なる為、個別に対応できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前、食後に口腔ケアの声掛け・介助を行い、個々に必要な介助を行っている。訪問歯科より、アドバイスを毎月もらい、ホームでの口腔衛生が保たれるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけ、排泄パターンの把握をし、誘導のタイミングなど個々にあった排泄対応が行えるように努めている。	排泄記録から排泄パターンを把握して、声掛け・誘導し、排泄の自立に向けた支援に努めている。ポータブルトイレ使用の方にはコールやセンサーを活用する等して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分量、排泄の間隔や量の観察を行い、必要に応じ水分を提供したり、腹部マッサージなど便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本の入浴日は決めているが、その日の希望や体調により、臨機応変に対応を変えている。必要に応じ、代替ケアとして、清拭や足浴を実施している。	ひとり週2回の入浴を基本としている。自力で浴槽に入れない半数近くの方には可動浴用いすに掛けてもらい入浴する方法で支援している。入浴を嫌がる方には日時を変えたり、清拭や足浴の代替えケアで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や疲労度、入居者様の気持ちに配慮し、休息の時間を設けている。また夜間眠れるように日中には必要に応じ、運動などが行えるよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	グループ内で取り決めた、ルールに沿い対応。内服変更時には、薬の効果や、副作用などの情報を共有し、変化に気付くように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や生活歴を把握し、好まれる活動や、嗜好品の提供などを行い、役割を感じる生活、楽しみのある生活が送れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があった場合には、ドライブや、買物・散歩など対応を行っている。運動会見学などでは、地域の方の協力もあり、見学を行っている。	車いすの方を含め散歩を希望する方には、一対一で対応し、また初詣や花見・紫陽花見物等にはなるべく皆が出掛られるよう配慮している。神輿見物や小学校の運動会見学では地域の方の協力を得るなど、地域と交流する機会にもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については、入居時に、紛失時等の取扱いについて、説明を行う。理解を得られたうえで、希望があった場合は、ご家族様と相談をし、支援できる様、検討している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、携帯電話の個人所持を許可している。入居者様または家族の希望があった場合などは、電話使用の援助を行い、連絡が取れる様努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間については、定期的に清掃を行い、不快感なく過ごせるよう努めている。共有スペースの使い方も、音や室温等入居者様を中心とした環境作りを行っている。	廊下や居間等は掃除が行き届き壁には折紙製の花などが飾られている。居間は広く、利用者は好みのテーブル席で過ごしている。談話室で、家族等来訪の折に利用され、また広いテラスは季節により日光浴や歩行訓練などに使われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別の空間は居室、共有空間は食堂と個々の希望にあった空間提供をし、過ごしてもらえよう対応している。 食堂内も、パーテーション等を利用し、スペースを区切り、個別の空間となる様工夫を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に伴い、居心地よく過ごせるよう、在宅の環境が継続できる様、自宅で使用していたものなどの持参をご家族様に依頼している。	自宅で使用していたタンスや小物・写真等持ち込み、在宅時の環境が継続できるよう好みに配置し、またベッドの配置も居室毎に異なっていたり等、本人が居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ケアマネ、居室担当を中心に、各入居者様の情報を共有し、自立した生活が送れるように努めている。		